

【平成17年度専修学校を活用した若者の自立・挑戦支援事業】

事業名	若年者の就業意欲喚起による、「3G教育プログラム」の研究開発		
学校法人名	学校法人武田学園		
学校名	専門学校ビーマックス		
代表者	理事長 武田結幸	担当者・連絡先	繁田洋行 (086) 256-7610
<p><事業の概要></p> <p>若年者を対象とした「学習と実習」による教育プログラムの研究開発を行う。この教育プログラムは、企業との連携による、専門学校と高等学校との共同開発である。</p> <p>若者の自立・挑戦を促すためのプログラムであり、以下の内容を実施する。</p> <p>①教育プログラム提供前後の変化を科学的アプローチにより分析</p> <p>②「学習」において具体的に“考動”という自立を促進するプログラムの開発と実施</p> <p>③実際の現場を体験するという「実習」を通じて、個人の環境適応力を高めるためのプログラム開発</p> <p><成果></p> <p>今年度岡山県は国体の開催県であり、時間的制約等、色々な制約の中での事業実施となったため計画の一部を縮小せざるを得なかったが、その中で得られた成果について抜粋する。</p> <p>① 若年者に見られる傾向</p> <p>傾向を見るにあたり、パーソナリティの構成を遺伝性の強い“気質”と後天性の“性格”の2面から捉え、さらに気質を「行動促進」、「行動制御」、「行動調節」、「行動維持」の4つの因子に、性格を「自己志向」、「協調志向」、「自己超越」の3つの因子に分類し傾向を探る。</p> <p>「気質・性格」傾向</p> <ul style="list-style-type: none"> ●専門学校生と高校生は自己志向が低い傾向にある ●逆に大学生は自己志向が高い ●社会人はその中間であるが、傾向として大きく分けると、専門学校生と高校生が同じ傾向、社会人と大学生が同じ傾向である。 <p>② プログラム実施後の変化</p> <p>(1) 性格特性の観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ●就労体験をすると自己志向が上がる（目標をもつことの重要性を知るため） ●就労体験をするとヒューマンスキルプログラムの経験が強化される ●性格特性の下部尺度である協調志向において、 <ul style="list-style-type: none"> ・ビーマックスの学生の社会受容の数値がプラスとなっている <ul style="list-style-type: none"> → HSPの継続的受講により、自らの思いと違うことも受け入れる態勢が予めできていたからである ・高校生及び、ビーマックス以外の学生の社会受容の数値はマイナス <ul style="list-style-type: none"> → 自分の望む仕事をさせてもらえない、会社の現場・現実に触れ、シビアにものを 			

見るようになったため

(2) 社会化（予期的社会化）の観点

- 就労体験により社会化が促進されるということが言える

(3) 具体的成果

今回、本プログラムに参加してくれた学生が、インターンシップ先の企業から内定を頂戴した。

当該学生は、特定の職種にこだわり、就職活動もその職種を目指して活動していたが、プログラムへの参加により、実際の現場・現実・現状（3G）を体験する事や企業で実際に働く方（大人）との会話等から、考え方に変化が現れ内定へと結びついた。